

〈研究ノート〉

# 沖縄における琉球人

—「沖縄人」のアイデンティティの変化について—

陳彦廷

## 1. 研究動機

2006年の8月の初め、東海大学日本語文学科系の先生と先輩たちが行った沖縄ツアーに参加した。ツアー期間の2週間のうちに、沖縄の多くの人々に出会った。いろいろな話を聞いたり、話し合ったりした。沖縄はきれいな海だけではなくて、米軍基地も、昔の琉球王国もある。

ある年配の男性が「琉球は沖縄じゃない！琉球は韓国、中国、そして台湾との友達だ！われわれは日本の一部分じゃない。日本は悪い国だぞ。」と言っていた。「沖縄は日本の一部分」という観念は当たり前であろうか。なぜそこに住んでいる人々が「日本」という国を認めないというのか。その年配の男性は日本人であるか、沖縄人であるか、或いは琉球人であるか。彼のアイデンティティはかなり矛盾を孕んでいると思った。

日本の政権との関わりにおいての沖縄のアイデンティティの変化を観察することを通じて、沖縄と日本に関する問題を掘り下げていきたい。

この研究では本からの資料だけではなく、アンケートも行う。そして、アンケートの分析によって、沖縄の人々のアイデンティティ変化について考察してみる。

## 2. 「琉球人」から「沖縄人」へのアイデンティティの変化

### 2-1、琉球処分

琉球（現在の地政学でいうところの沖縄）には自らの政体がある——琉球王国。13世紀の頃、琉球の各地で戦争があって、小国がどんどん出現していた。14世紀の頃、大きな王国が成立した——中山王国、つまり、今で言う琉球王国である。14世紀の後半、中国の明朝に朝貢をした。この時、琉球と中国との関係が初めて繋がった。数百年間、琉

琉球は中国と宗主関係にあって朝貢していた。

明治時代から、日本の主権は天皇の手に戻った。その時の明治天皇は幕藩時代からの藩士や武士の体制を廃し、県を設置してから、日本国家を統一した。1872年には明治政府は琉球王国を廃止して、琉球藩を設置した。しかし、中国の清はそれにたいした反発しているが、明治政府は、1874年に宮古事件（琉球人は台湾の原住民に殺害した事件）によって、台湾に出兵した。この時期、明治政府は、琉球の領有権を主張する。1879年には、日本政府は琉球に郡代を派遣して、年中に沖縄県を設置した。以上は琉球処分と呼ばれている。

琉球処分後、沖縄の社会体制が変わって、世情が乱れていた。そのため、明治政府はいくつかの政策を実施した。それは、「近代教育」や「皇民化政策」などである<sup>(注1)</sup>。

明治政府が政策として行った「近代教育」の目的は「琉球人」を「日本人」に改造することだった。この教育と皇民化政策は沖縄人が「明治国家への帰属意識」を身に付けることを目的としている。昔の中国の儒家教育は禁止された。教育を通して、思想的な改革を行う明治政府が台湾を植民地とする時期もある。そして、皇民化政策で、日本の人々は天皇を中心とした国体を保持し、広げようとする。明治政府は沖縄で徹底した皇民化教育を進めていく。

教育の実施は一般の人々の思想や考え方などを意識的に改造することである。そして、「皇民化」によって、明治政府は天皇を中心とする国体や思想で当時の「琉球人」を「日本人」に改めようとする。

## 2-2、沖縄戦での集団自決

琉球処分から、第2次世界大戦の終わりまで、日本が沖縄を統治して50年くらいになった。「沖縄人」（その当時、沖縄本島出身の人々）も日本からの「近代教育」と「皇民化」を受けていた。沖縄戦前に、「沖縄人」のアイデンティティは一体どう変わっているか。この小節では沖縄戦の経緯を説明する。そして、沖縄戦で、「集団自決」のことについても言及する。これによって、「沖縄人」の

アイデンティティの変化について考えたい。

## 沖縄戦と集団自決

1945年の3月の終わり頃、アメリカ海軍は激しい戦いを沖縄に近い地域で始めた。4月1日に沖縄本島に上陸してから、沖縄戦が始まった。米軍の兵力はほぼ55万人と言われている。それに対して、日本と沖縄のほうは約1万人である。この戦争は日本にとって、はじめの日本の地上戦である。それは、3ヶ月くらい続いて、同年の6月23日に終わった。

戦争でほぼ20万人が死んでしまった。沖縄人がほぼ18万人を占めるといふ。しかし、そんなに多くの沖縄人はアメリカの軍隊に殺されただけではなくて、日本軍隊の脅威にも関わると描かれている。

沖縄戦で一番目立つのは集団自決ということである。「集団自決とは自殺したり、仲間同士で殺し合ったりすること」<sup>(注2)</sup>である。なぜ彼らは集団自決するのか。沖縄で隠れる洞窟が少ないので、戦時のアメリカと日本の軍隊が沖縄に入ってきて、人口が増えてきた。だから、多数の避難する日本軍人は沖縄人と同じ洞窟に隠れた。その時、もし子供が泣いたら、日本軍は自分の隠れるところが米軍に見つけれないように、沖縄住民に自分の子供を殺させることという命令があった。そして、住民は日本軍に隠れていた洞窟から追い出されたので、外で爆弾で殺されることもある。「日本軍は、住民に対して壕から追い出し、食料強奪、陣地の漏洩防止のために幼児を毒殺、絞殺、刺殺するといった行為、スパイ視殺害行為、友人、知人、肉親同士の殺し合いであるいわゆる『集団自決』の必要なことが次第で発生した」というのは明らかなことである<sup>(注3)</sup>。2006年の沖縄ツアーで聞いた話だが、それは沖縄の読谷村の話である。そこに「チビチリ」という洞窟がある。沖縄戦の際に、85名の住民が集団自決で死んでしまった。85名の沖縄人が「米軍に捕らえられて侮蔑を受けるより、日本人として純潔的に死んだほうがいいよ！」といわれるので、米軍が洞窟の外で投降を要求している時、まず自分の子供を殺して、その後同士で殺しあつた。

その時の沖縄は日本の領土であるので、住民は戦争で米軍と戦って、犠牲になったり、殺されたりしたが、なぜ多くの沖縄人が日本軍の命令で自決しなければいけないのか。集団自決は沖縄人に対して、どんな意味を持っているのか。以下、アンケートの調査によって、「日本本島」と「沖縄本島」の答えから、この事件について考察する。

### 2-2-1、「集団自決」に関する調査

このアンケートは2007年の4月に沖縄国際大学の学生たち、東海大学日本語学科の学生たちが後輩や日本在住或いは沖縄在住の知人に配布して行った。全部で101人、沖縄本島出身者は64人であって、日本本島出身者は29人である。

アンケートの内容は、主に現在の沖縄出身の人々のアイデンティティに関わることである。日本本島と沖縄本島の異なる視点によって、「沖縄人」のアイデンティティの変化を客観的に判断すべきであると考えている。

#### 一「集団自決を知る人数」「日本軍が沖縄人の命を無視したか」一

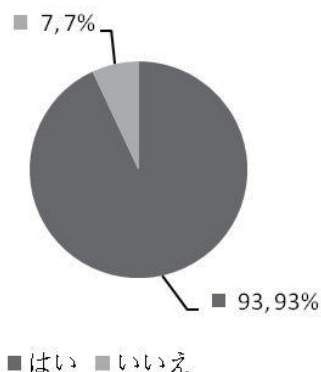
##### ①沖縄戦での集団自決を知っていますか。

全体の答え（図 - 1）

全部：101人

無回答：1人

実際回答人数：100人



（グラフ中の「7, 7%」とは、「7人、7%」を示す。同様に「93, 93%」は「93人、93%」である。今後グラフが出てきた場合、あえて説明を付さない限り同様の意味とする。）

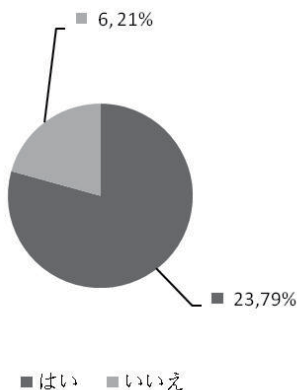
さて、日本と沖縄に分けて詳しく分析する。日本、或いは沖縄の出身を書いていない人が8人いるので、出身が分かる93人について、日本本島と沖縄本島に分けてグラフ化すると、結果は以下のようになる。

日本本島の側 (図 - 2)

全部：29人

無回答：0人

実際回答人数：29人

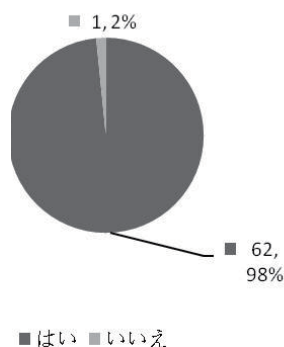


沖縄本島の側 (図 - 3)

全部：64人

無回答：1人

実際回答人数：63人



## ②日本軍が沖縄人の命を無視したと感じますか。

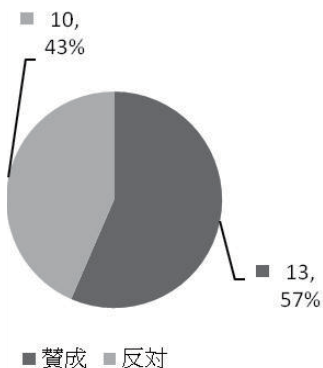
次に示すのは、図一2と3の「はい」と答えた人々に、さらに「日本軍が沖縄人の命を無視したと感じますか」と質問をしたのに対するこたえである。

日本本島の側 (図 - 4)

全部：23人

無回答：0人

実際人数：23人

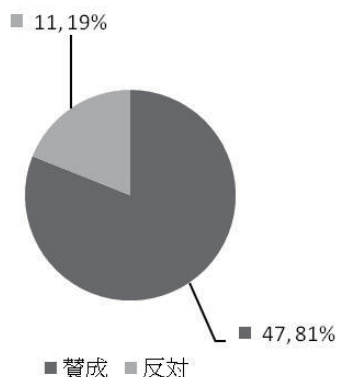


沖縄本島の側 (図 - 5)

全部：62人

無回答：4人

実際人数：58人



## 2-2-2、「集団自決」に関する調査の分析と結果

「命を無視する」という議題を通して、戦後の今の日本と沖縄の人々が「集団自決」に対してどう考えているか分析していく。

このアンケートの相手は全部で101人であって、そのうち81人は大学生である。特に沖縄本島の方は半分以上が学生であるが、回収したアンケートによって、学生でも彼らの親たちやおじいさんなどから「集団自決」について聞いたことがあるということが分かっている。だから、彼らの答えから、アイデンティティの変化が見られるのではないか。そして、日本本島と沖縄本島両方から、同じ事件に対する意見はどうか。つまり、内側と外側の違う視点で「集団自決」を客観的に分析する。

### 日本本島の側：

日本本島の人々の回答によれば、ほぼ20%の人が「集団自決」を知らない。沖縄は日本の領土の一部であるが、なぜ知らない人がこれだけ多くを占めているのかという疑問がある。彼らがなぜ知らないのかははっきり分からないけれど、日本の国民として「集団自決」という歴史を知る必要があるのではないだろうか。

では、これから、このアンケートに対しての賛成のほうの人々の意見をいくつか具体的に見ていく。

#### 賛成の人々の意見：

- A1さん：無視したわけではないだろう、必然であったのではないかなと思う。
- A2さん：自決は、どのような政治、宗教、信条をもってしても、許されるべきではない。
- A3さん：日本は人の命より日本が勝つことしか考えていなかったから。
- A4さん：日本軍は本土侵略を恐れ、沖縄の住民たちを捨て駒にした。

賛成のほうには「命を無視」をしたと思わないという意見もある。「無視」をしたと思うけれど、多くの方は戦時なので、命令を大切に守らなければならないと思っている。だから、集団自決ということがよくある。それも仕方がない。

特に、A4さんのような証言はごく一般的なものであるといえる。「本土」を守るために、戦争を沖縄に移したという話がよくある。「沖縄」は日本の本土ではないか、或いは特別のところだろうかという感じがある。これによって、日本本島と沖縄本島の人々が

「内地」と「外地」の概念を持っていることが推定できる。

反対の人々の意見：

B1さん：同じ人間である意識は持っていたと思うから。

B2さん：命より命令のほうが重かっただけ。

B3さん：特別に沖縄の人の命を無視したとは、思いたくはありませんが、そのように伝えられてしまっているのは、仕方がないところもあるように感じます。

B4さん：日本人は「死に際は美しく」という意識が強い、それは琉球人も同じ。日本軍は沖縄の民間人に「命は大切にしろ」と命じている。しかし暗黙に「死に際は美しく」という感情があるので、結果として集団自決となったと思われる。会津の白虎隊の集団自決も同じではないか？

命令だから、それも仕方がない、B3さんは言った。B1さんの言う「同じ人間」とは「日本人」と「沖縄人」は同じ「日本人」だという意味であるか。或いは、同じ「人間」という意味か。どちらでもいえるかもしれないが、この意図するところを明確にするのは困難である。

「日本軍は沖縄の民間人に『命は大切にしろ』と命じている。しかし暗黙に『死に際は美しく』という感情があるので、結果として集団自決となったと思われる」の証言は、外側から見た場合の「死に際は美しく」なのか。この概念はもしかして昔の武士道からのものだろうか。そうであるなら、自分（日本人）が死に対する視点で話すではないだろうか。だから、「結果として集団自決となったと思われる」という話があった。「死が美しい」と「集団自決」という異なる考え方は、「内」と「外」という観念を含み持っていると思う。そして、彼は「琉球人」という言葉を書いた。「沖縄人」と「琉球人」という言葉の違いはここで、微妙なニュアンスを表しているのではないか。

### 沖縄本島の側：

さて、今度は沖縄のほうを見る。「沖縄人の命を無視」を認める人のパーセントは日本本島より多くて、81%を占める。反対の人もいるが、少ない人数である。以下が沖縄からの意見である。

賛成の人々の意見：

C1さん：日本軍は、沖縄を本土決戦の時間稼ぎのために捨てた時点で、沖縄の人の命を無視しているといえる。

C2さん：あの頃の日本人は頭がおかしかったと思う。変な催眠術みたいなのに日本本土の人ほとんどがかかっていたんじゃないかな。「敵に見つかるぐらいなら自殺しろ」なんていう指導をした国（軍）の上の人たちは本当にアホだったんだと思う。アメリカ軍を日本本土に上陸させないために沖縄戦があった。もし日本が降参しなくて、アメリカ軍がそのまま日本本土に上陸していたら、日本本土の国民に対しても集団自決をさせていたのではないかと思う。

C3さん：沖縄の人々を同じ日本人だと思っていないから。沖縄の人々は差別されていた。

C4さん：自分たち（日本人）を守るために、沖縄を犠牲にした。

この部分は、日本本島の賛成の答えと比べて、ほぼ同じだといえる。日本本島を守るために、沖縄で戦争を起こさせる。この視点からすれば、かなり多くの当時の沖縄人は日本本島を守るために、沖縄で米軍と戦ったと思っているのではないだろうか。

C3さんの証言から見ると、「アイデンティティ」という考え方がある。「沖縄の人々を同じ日本人だと思っていないから」という意見から考えれば、現在の沖縄人でも、「日本人」と「沖縄人」の間に、区別や違いがないということはない。これは「『沖縄人』が『日本人』である」という概念を反駁する。つまり、「沖縄人」は「日本人」と違うと考え、「沖縄」という名前は日本から付けられたものであって、沖縄の人々が自分を日本人だと思わないこともある。

反対の人々の意見：

D1さん：戦争当時、皇民化政策が敷かれていたため、命を捨てても天皇のため、国のために命を捨てることは常識であったというのが実情だと思う。しかし、生命よりもその考えのほうが重要であったという考え方はとても受け入れがたい。

D2さん：無視をした兵隊もいるが、親切に接した兵隊もいると思う。日本軍の中には沖縄の人々も含まれている。

D3さん：そういう人もいただろうが、沖縄の人の命を守ろうとしてくれた人も中にはいたのを知っているから、簡単には「はい」といえない。

D4さん：軍人は一人一人の考えはいろいろあったと思う。だけど、日本軍の上の人達は沖縄人の命を無視したと感じる。

なぜ沖縄本島の人々がこの「集団自決」は「命を無視」しているという考えに対して、

反対の意見を持っているか。ある人が簡単に「賛成」と言えない理由は、多分軍隊に沖縄の人々がいたからというのである。

「皇民化政策が敷かれていたため、命を捨てても天皇のため、国のために命を捨てることは常識であったというのが実情だと思う」というのはある沖縄人が書いたものである。先に、琉球処分の小節では、「皇民化政策」について述べた。集団自決には、「皇民化」からの影響がよく見られると考えられる。天皇のために、命を捨てても大丈夫だと思っている人が多い。だから、これによって、戦争の時期の沖縄人は一生懸命に「日本人」になるために、命を捨て、日本本島の人に自分（沖縄人）が天皇に対する忠実を表したいという気持ちが見える。このために、彼らは死ぬことにした。

これから、「アイデンティティ」に議題を向ける。この時期のアイデンティティは段々「日本人」になるようになっていった。琉球処分の政策は、戦争の時にはすでに発効していると考えられる。だから、以上の沖縄本島の人々からの証言によって、元の「琉球人」は「沖縄人」として、「日本人」としての意識が強くなっていると考えべきである。

#### 2-4、戦後からのことと2007年の教科書を書き直すこと

戦中から戦後にかけて、アメリカは沖縄に東アジアの軍事用地として軍地を建てることを目指す。戦後のGHQによって、琉球諸島は日本から離れたということがある。アメリカは世論を無視して、「沖縄の無期限保有」を宣言した。

1950年以降、軍事基地の計画は進められる。1952年、サンフランシスコ条約が発効して、アメリカは南西諸島などの島を統治することになった。日本の米軍基地のうち75%は沖縄に集中している。沖縄は基地を建てる前には、そんなに平和ではなくて、住民は抵抗していた。しかし、米軍は武装をして、かなりひどい手段で住民を脅威して、軍事基地を建てる。

1960年代の後半には、米軍基地の問題に対する反対の声が強くなってきて、「日本に復帰」という考え方があった。その考えはもし日本に復帰したら、沖縄の米軍基地の改善にいいということで、「日本に復帰」のスローガンが出て、それについてのデモがどんだん行われていた。しかし、「日本に復帰」だけではなくて、「琉球独立論」と「中国

に帰属」という2つの説もある<sup>(注4)</sup>。だから、戦後から復帰前に、沖縄人のアイデンティティは矛盾する段階を迎えているかもしれないと思うが、それに関する明確な資料は発見できない。

そして、2007年9月頃日本の文科省から高校の歴史の教科書を書き直す提案があるというニュースが沖縄タイムスに載っている。その内容は沖縄戦の時の強制集団死（集団自決）についての史実を書き変えるというものである。今の日本史教科書を書き直すことは日本と沖縄の間に論争を起こしている。

今の日本の文科省は沖縄戦の歴史の史実を書き直すつもりらしい。「強制集団死」の「強制」という言葉を消して、集団自決という行為は自分たち自身のやったこととしている。軍隊からの命令がなかったということである。「関係者によると教科書調査官は今月中旬、各社の担当者に『日本軍の守護と強制の述語が直接つながる表現は避けてほしい』との趣旨を伝達したという」<sup>(注5)</sup>。これは沖縄タイムスからの一部分である。日本政府は自分がやったことを消そうとしている。

この事件を通して、日本本島と沖縄本島それぞれの側から、彼らは何を考えているかについて、アンケートから両方の考えを見よう。

## 2-4-1、「教科書の書き直し」に関する調査

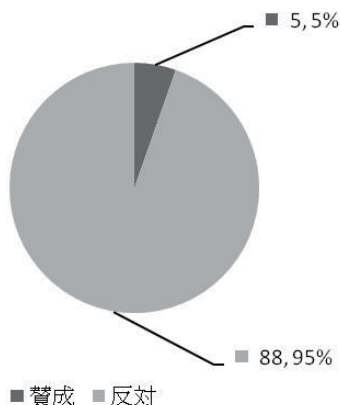
—「2007年に教科書の沖縄戦に関わる歴史書き直し（「強制集団死」の「強制」という言葉を消す）の議論がありますが、それを見て、「日本政府は沖縄の歴史を尊重しているか」—

全体の答え（図 - 6）

全部：101人

無回答：8人

実際回答人数：93人



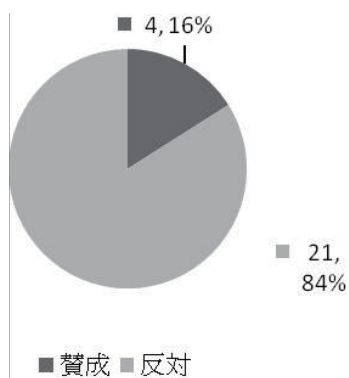
次に、日本と沖縄に分けて分析する。日本、或いは沖縄の出身を書いていない人が8人いるので、出身が分かる93人について日本本島と沖縄本島に分けると、結果は以下のようになる。

#### 日本本島の側（図 - 7）

全部：29人

無回答：4人

実際回答人数：25人

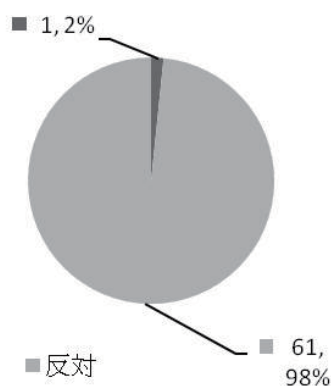


#### 沖縄本島の側（図 - 8）

全部：64人

無回答：2人

実際回答人数：62人



### 2-4-2、「教科書の書き直し」に関する調査の分析と結果

「日本政府は沖縄の歴史を尊重しているか」という問いに対しては、個人によって考え方が異なっており、そして、沖縄の歴史は個人によって、意味や解釈などが違ってはいるはずである。図 - 6から8まで、反対のほうが多くを占める。これから日本と沖縄両方の答えを分析していく。

#### 日本本島の側：

賛成の人々の意見：

E1さん：かつての歴史から判断して、沖縄（琉球王国）は日本の属国であるから。

E2さん：集団自決は美意識、それを『強制』というのは、琉球人をバカにしたことになると思う。

E1さんの言葉からは、「昔の琉球王国」と「今の沖縄」は日本の属国なので、日本政府が「沖縄の歴史」を書き直す権利があると考えていることが読み取れる。「強制」というのは琉球人をバカにしたことなるので、「強制」という言葉を消したほうが良いと考えている人はE2さんである。ほかの二人は考え方を書いていない。しかし、以上の2つの答

えは、日本を中心としての考え方であるので、中心の日本と地方の沖縄という区別があると考えられる。これは「集団自決」の調査の日本本島の側からの証言と同じではないだろうか。日本本島と沖縄本島は「内地」と「外地」という違いがある。

E2さんの答えは表面的に見たら、間違うところはないけれども、なぜ彼は「琉球人」という言葉を使うのか。アンケートの質問の中には「琉球人」という言葉を全然使っていないのに、「琉球人」と書いた。今の日本では、「沖縄人」と「琉球人」という言葉は彼らに対してどんな意味を持っているのか。

反対の人々の意見：

Fさん：ただ政府は自分たちが都合が悪くなり、日本の歴史のイメージを悪くさせないために、犠牲になった沖縄人は軍の強制で殺したのではないとしていると思う。沖縄の歴史よりもとにかく日本のイメージを守ろうとしていただけだと思います。

多くの人は「歴史の事実」を消すことがあまりよくないと思っている。Fさんは自分の立場で「歴史を書き直し」することがよくないと答えたが、もし日本の立場で観察したら、Fさんのような答え、「日本のイメージを守るのが大切だと思っている人が多い」ということになる。歴史を書き直すことに反対しても、「日本政府が自分のイメージを守る」のは仕方がない。この言い方は「教科書の書き直し」に同情しても、自分（日本本島の人）とは関係のないことだと感じているのである。

#### 沖縄本島の側：

反対の人々の意見：

G1さん：日本政府は愛国心教育のため、都合の悪い昔の事実を消そうとしている。けれど、自らの領土に住む人々を大切にしているとは思えない。それなんで愛国心芽生えない。

G2さん：日本政府の人は、沖縄の現状、沖縄のことをうわべだけ見て判断して、沖縄の人たちのことを（気持ち）ちゃんと分かっていないと思う！！どこか他人の事のように考えているように見える！！

今度は、沖縄のほうを見る。賛成の人は一人しかいない。彼の意見は「強制」という言葉は学術用語なので、「強制」を消すのはかまわないと思っている。けれど、実は、彼らは強制という事実があるかどうかははっきり言えない。

反対だと思う人の意見は98%を占める。これらの証言で、沖縄の人々は「歴史の書き

直し」に対して、不満や「沖縄と日本との区別」を感じていることが分かる。「愛国心が芽生えない」という意見からは、「日本」を沖縄が帰属する国として認めていない感じを読み取ることができる。G2の証言で「他人の事のように考えている」という意見がある。現在の視点で「教科書の書き直し」を見ても、沖縄は日本にとって「他人」のことであると感じる。

教科書の書き直しについてのアンケートの調査によって、G2さんの「どこか他人の事のように考えているように見える!!!」の証言から判断すれば、今の沖縄の人々はこの事件に対して、自分が「日本人」、或いは「沖縄人」とであると認めているけれど、「沖縄人」として、「日本本島の日本人」とは違いがあると思っているのかもしれない。

### 3. 「琉球人」と「沖縄人」に関するアイデンティティ

これまで、琉球処分から現代の教科書の書き直しのことまで、アンケート調査からの統計や証言から、今の「沖縄人」のアイデンティティを分析した。ここまでで分かることは元の「琉球人」のアイデンティティは段々「沖縄人」に変わっているということである。そして、「沖縄人」と「日本人」は同じであるのか。全く同じだとはいえないが、2つの呼称の関係は微妙である。そして、「沖縄人」と「琉球人」は同じか。これから、2つの質問の調査で、現在の「沖縄人」のアイデンティティの変化を分析していく。

### 3-1、「沖縄人」のアイデンティティに関する調査

#### —今でも、沖縄の人々には琉球人というアイデンティティが存在しているか—

全部：101人

出身を書いてない：8人

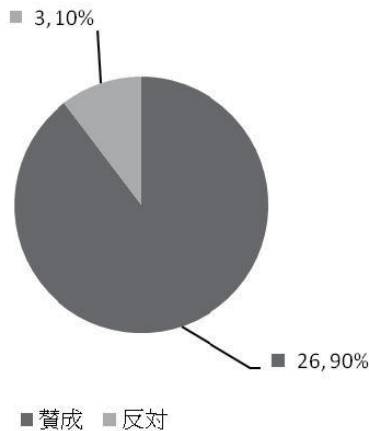
実際回答人数：93人

日本本島の側（図 - 9）

全部：29人

無回答：0人

実際回答人数：29人

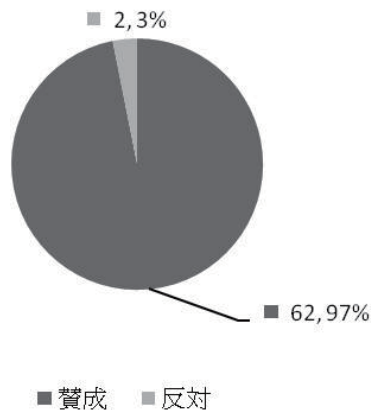


沖縄本島の側（図 - 10）

全部：64人

無回答：0人

実際回答人数：64人



日本と沖縄のアンケートを分けて分析してみれば、ほぼ百パーセントの人は「今でも、沖縄の人々には琉球人というアイデンティティが存在している」ということを認めている。これは、確かにちょっと不思議である。「琉球人」というアイデンティティは琉球王国時代に属するものではないのか。そして、復帰から今でもう36年経って、琉球人というアイデンティティが保たれている。引き続き、彼らの選択の理由から詳しく分析してみる。

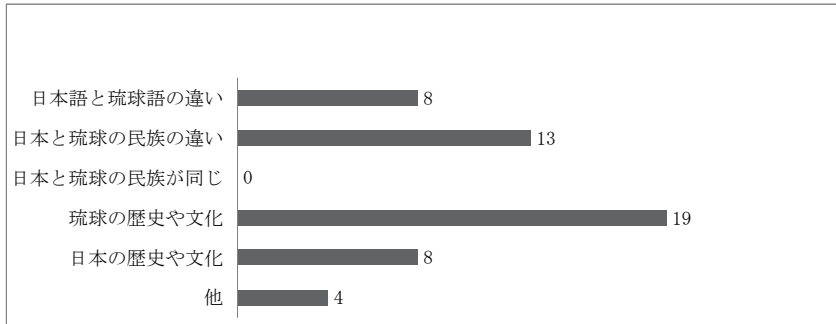
### 3-2、「沖縄人」のアイデンティティに関する調査の分析と結果

これから、「なぜ今でも、沖縄の人々には琉球人というアイデンティティが存在しているか」という問いから、日本本島と沖縄本島の意見を見る。

日本本島の側：26人

(この人数は3 - 1の質問に対する賛成のほうである。2つ以上選べる)

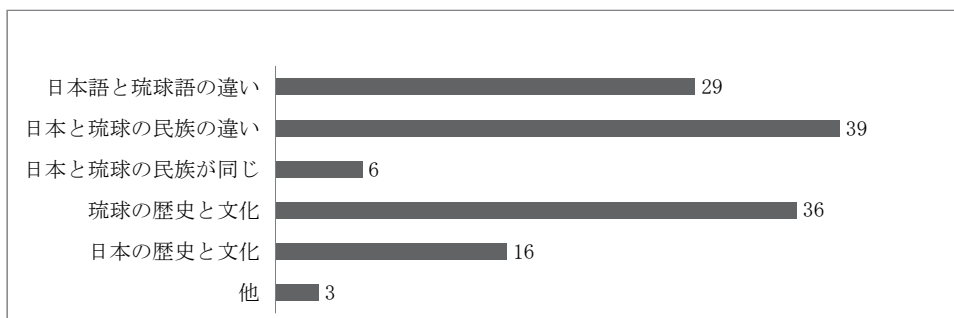
(図 - 11)



沖縄本島の側：62人

(この人数は3 - 1の質問に対する賛成のほうである。2つ以上選べる)

(図 - 12)



「今でも、沖縄の人々には琉球人というアイデンティティが存在している」という答えによって、日本本島の人と沖縄本島的人是多分、「琉球人のアイデンティティ」という観念を持っていることを認めている。これからいくつの視点で分析する。

### 歴史と文化：

「日本の歴史と文化」は「琉球人のアイデンティティ」の1つの原因として認められる。それについては、2つ答えがある。まず、1つは琉球の歴史と文化は日本のそれとは違うという答えで、もう1つは日本の歴史と文化は琉球に深く影響したということである。

以上の2つは原因として可能性があると考えられるが、直接の根拠がないので、どちらでもいえるかもしれない。

アンケートの回答で一番多かったのは琉球の歴史と文化である。沖縄の那覇の首里城で昔の琉球の歴史などについてを詳しく紹介している。確かに、何百年前に、琉球の人にとっての自分の王国があるということは事実である。そして、今でも、琉球のエイサーなどの伝統文化は沖縄の地方文化として認められる。そうであるので、日本の人々と沖縄の人々は琉球の歴史と文化を根拠として「琉球人というアイデンティティ」が持たれていることを認める。

### 民族の違いと言語：

民族の視点で見れば、沖縄人と日本人は同じ民族か。アンケートの結果からすれば、そうではない。沖縄本島の側から見れば、日本と琉球の民族が同じであると認める人は6人しかない。39人の人は自分の民族と日本の民族とは違うと思っている。だから、沖縄の人はほとんど自分の民族は日本本島のと違うと考えている。日本に復帰してから、30年間経って、なぜ自分が日本人ということ認められないのか。

日本本島の側から見たら、13人は異民族だと思っているけれども、同じ民族であると認める人はゼロである。ゼロという意味は、同じ国の人でも、民族性が違うということではないだろうか。だから、両方の結果によって、今でも、沖縄の出身の人が「琉球人というアイデンティティ」を持っていることは認められている。

両方の違う視点によって、沖縄の人々は昔から「琉球人」というアイデンティティをずっと持っていると言える。そして、ここでの「沖縄人」と「琉球人」との関係はどう繋がるのか。

言語に関していえば、両方がそれが「琉球人のアイデンティティ」を持っていることの1つ根拠として認めており、琉球語を話すことは「琉球人というアイデンティティ」を表すことに繋がる。

沖縄にいる時、年配者たちと話したことを思い出した。「日本がそんなに嫌いなのに、なぜ日本語を話すのか？」私は彼らに聞いた。「これは仕方がないよ。生まれてから、学

ぶ言語は日本語だよ。でも、自分の言語（琉球語）が忘れられない、絶対に！」ある年配者がそう言った。彼らは生まれてから、日本語の教育を受けているので、それは自分で決められないことである。しかし、琉球語を話す気持ちは忘れられない。琉球語を話すことで琉球を生かせるという感覚を持っているのであろう。

今の「沖縄人が琉球語を話す」ということで、はっきり「琉球人のアイデンティティを持っている」ということは明確ではないが、意識にそれを持っているかもしれないと推定することができる。

### 3-3、「沖縄人」と「琉球人」のアイデンティティに関する調査

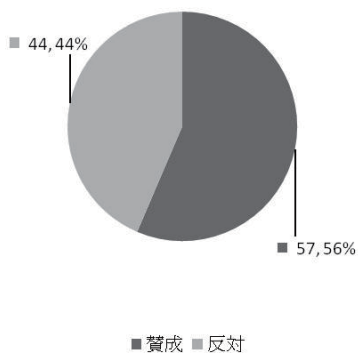
#### —「『沖縄人』と『琉球人』は同じか」—

全体の答え（図 - 13）

全部：101人

答えない：0人

実際人数：101人



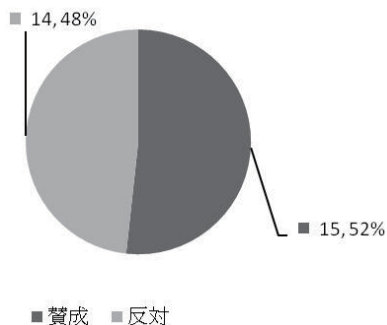
（以下、8人は出身を書いていないので、全部は93人である。）

日本本島の側（図 - 14）

全部：29人

無回答：0人

実際人数：29人

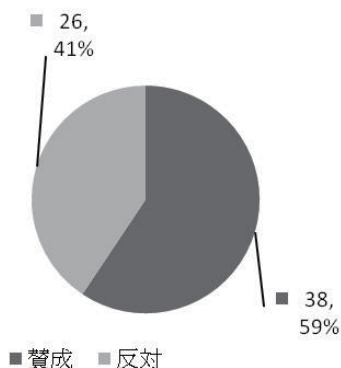


沖縄本島の側（図 - 15）

全部：64人

無回答：0人

実際人数：64人



### 3-4、「沖繩人」と「琉球人」のアイデンティティに関する調査の分析と結果

全体を見れば、同じだと思っている人は56%を占める。「琉球」は昔の琉球王国の時に呼ばれていた名前である。琉球処分後、「琉球」は「沖繩」に改められた。「沖繩人」と「琉球人」はまだ同じであろうか。

日本本島の側：

賛成の人々の意見：

H1さん：歴史的においても、琉球人と日本の民族は全く異なるものです。沖繩人という言葉は、単に琉球人の言い方を変えたものであるだけだから琉球人イコール沖繩人との解釈とされると思います。

H2さん：前は違っていても、根本的に持っているものは同じだと思う。同じ沖繩に住んでいるものとしては、違いはないと思うから。

日本本島の側は「賛成」と「反対」は52%と48%である。そして、賛成の多くの人は、それはたぶん「沖繩人」と「琉球人」は同じところに住んでいて、呼び方しか変わらないので、同じだと思っている。

反対の人々の意見：

I1さん：琉球人は彼らの確立したアイデンティティ、文化、言語などを大和のものとは全く違う形で持っている。沖繩人は現代の日本の影響を大きく受けていると思う。言葉や生活の様式、どのようなものを彼ら自身の生活の中に取り入れるか、とすることを考えてみると、本土の影響を受けたものが多く見られる。

I2さん：私は琉球人は1種の民族の単位であると見ているからで、沖繩人というのはただ、沖繩で生まれた育っただけの人達のことであると思うから。

「沖繩」という名前は日本から付けられたのである。簡単に言えば、「沖繩人」は日本からの影響を多く受けている。「琉球人」は昔の琉球王国の言語の影響を受けていた。だから、この判断によって、「沖繩人」と「琉球人」が違うと推定できる。

沖縄本島の側：

賛成の人々の意見：

J1さん：日本、沖縄の歴史について私はあまり知識がありません。たぶんですが日本の「廃藩置県」により琉球から沖縄になったのだと私は思っています。例えば鹿児島県が鹿児島県になる前は薩摩藩だったんですよね（たぶん）？鹿児島＝薩摩藩なら、沖縄＝琉球だと思うから、同じように沖縄人＝琉球人だと私は思います。

J2さん：琉球と沖縄は名前（呼び方）は違うが、「人」は一緒であり、考えも同じだと思うから。

沖縄本島の側から見ても、賛成の人々は日本本島の人の考えとほぼ同じである。図15の結果、分かることは「『沖縄人』と『琉球人』は同じ人間」であると認める人は、沖縄本島でも、59%を占める。

反対の人々の意見：

K1さん：生きている時代の違いがあるため、またアイデンティティとして琉球王国から生きてきたという歴史観を持っているが、現在の人々はその時代を生きていないため、その点について意識化するのは難しいため、沖縄人と琉球人は一概に同じとは言えないから。

K2さん：「琉球人」というのは、とても古い歴史の中の人々というイメージである。琉球王国の時代の人々が、今の沖縄人につながっているとすると、「沖縄人」と「琉球人」という言葉は、違う意味を持つ言葉だと思う。

以上、反対の人の判断はおそらく時代による区別である。それは、沖縄人が日本からの思想の影響を受けているので、昔の琉球の時代と比べると、異なるのである。これも日本本島の反対の人の考え方と同じである。

そして、現在、沖縄の出身の人は沖縄の元の住民（琉球人）ではないかもしれない。特に、那覇の都市に多くの日本本島や外国からの人々が集まっているので、文化や伝統などは深く影響されていて、変わっている。

アイデンティティの視点で見れば、「沖縄人」と「琉球人」は同じではないと思う人は「沖縄人」と「日本人」が1緒であると考えている。これは「賛成」だと思う人と比べて、「琉球人」と「沖縄人」は別の人間であると認めていると推定できる。

#### 4. 結論

今までの調査によって、沖縄人のアイデンティティは段々変わってきたことがわかる。そして、「沖縄人」と「琉球人」の意味も変化しているのではないかと推定される。

琉球王国の時期には、琉球は日本的一部分ではなかったため、「沖縄人」のアイデンティティはまだなかったはずである。宮古事件のあと、日本は琉球の主権を接収したばかりなので、琉球王国の人々はまだこの新しい政権を納得できないかもしれないけれど、その時代のもっと詳しい根拠はないので、当時の琉球人は「沖縄人」を認めるか、或いは、「沖縄人」のアイデンティティを持つかどうか具体的に分かっていない。

琉球処分初期、日本のほうも「近代教育」や「皇民化」を実施し始めた。当時の「琉球人」は「皇民化政策」と「教育政策」を受けていて、沖縄戦まで、ほぼ50年の間に、彼らは、「日本人」になりたいという気持ちが強くなったかもしれない。だからこそ、沖縄戦のとき、「戦争当時、皇民化政策が敷かれていたため、命を捨てても天皇のため、国のために命を捨てることは常識であったというのが実情だ」という考え方が沖縄人のイメージに残っている。国のために、戦争に出て、「集団自決」が起きた。こういうことから当時の「沖縄人」はもう「日本」を認めているかもしれないと推定できる。

以上の視点で判断した場合、この時期の「沖縄人」は元の「琉球人」から「沖縄人（日本人）」に変わっていたと考えられる。次に、3章の部分の調査によって、「琉球人」、「沖縄人」と「日本人」のお互いの変化や関係を分析する。

現在、一般的に「沖縄人」は「日本人」であることが認められている。3-1の調査で、現在の沖縄の人々が今でも、「琉球人のアイデンティティを持っている」ということを認めているのは97%である。それはほぼ百パーセントである。そして3-3の調査の中で、ほぼ59%の人は「沖縄人」と「琉球人」は同じだと思っている。けれども、41%の人はそうではないと思っている。つまり、ほぼアンケートの質問に答えてくれた沖縄の人々は今でも「琉球人のアイデンティティを持っている」ということを認めているが、41%の人は「沖縄人」と「琉球人」が同じではないと思っている。「沖縄人」は日本からの影響を受けているわけである。59%の人はそれに対して反対の意見を持っている。「『沖縄人』であるが、『日本人』であるか」という疑問がないのか。これから、知花昌一さん証言につ

いてみたい。

ある沖縄の平和運動家、知花昌一さんのインタビューの会話。「飲み会のときから、知花さんは『僕は国を愛しています』と言っておられました。知花さんにとって何なのですか。」という記者からの質問。「沖縄の人に『あなたは日本人』とか聞くと三つの答えに分かれます。一番多くのが普通に『日本人です』と答える人。一番少ない人『琉球人、沖縄人』と答える人。そして、結構多いのが僕のように中途半端な立場です。『日本人ではあるけれど、日本を否定したい』という立場なのです」<sup>(注6)</sup>。現在の沖縄人でも、「日本人」であることを認めるけど、日本を否定する気持ちがある。この証言は、59%の人の答えと同じである。

以上の調査の結果によると、現在の「沖縄人」は「琉球人」と呼ばれないが、「琉球人のアイデンティティ」を持っていると言えるのではないかと。「沖縄人」と「日本人」の違いと「沖縄人」と「琉球人」の違いはかなり微妙である。「沖縄人」と呼んでも、「日本人」と「琉球人」のアイデンティティを含めているのではないだろうか。

## 5. 今後の課題

今までやっていた調査の分析と結果で、「沖縄人」アイデンティティの変化と「日本と沖縄の政治関係」を少し言及したが、特にアイデンティティの変化に関する分析は時代によってもっと複雑になるはずである。アイデンティティはそんなにはっきり分けられないけれども、アイデンティティは自分が認めること、例えば家族、生まれる所、或いは国家などを含んでいるのではないかと。だから、自分のアイデンティティを認めるとき、混乱してしまう可能性もあるだろう。

本研究ノートは「沖縄県を設置」から「2007年の教科書の書き直し」までのそれぞれの歴史の事件によって、書かれたノートである。しかし、これは筆者の初めの調査であって、書いた範囲も広くて、不足のところはあるはずである。これから、今後の課題として、日本と沖縄の歴史や関連などをもっと深く理解させていただきたい。

(陳 彦廷 東海大学日本語文学系修士課程)

**注：**

- 1 豊見山和行 (2003) 「琉球・沖縄史の世界」吉川弘文館 PP. 245-259
- 2 池上彰 (2002) 「そうだったのか！日本現代史」集英社P.155
- 3 同上
- 4 安仁屋政昭・新垣勉・大城保英・佐次田勉・宮城義弘 (1996) 「沖縄はなぜ基地を拒否するか」新日本出版社P.67
- 5 「沖縄タイムス」2007/12/22 朝刊
- 6 「月刊 お好み書き」1995年11月1日号—「日の丸焼き捨て事件」の知花さんのインタビュー

**参考文献：**

- 豊見山和行 (2003) 「琉球・沖縄史の世界」吉川弘文館
- 池宮城秀意 (1980) 「戦争と沖縄」岩波書店
- 大江健三郎 (1970) 「沖縄ノート」岩波書店
- 安仁屋政昭・新垣勉・大城保英・佐次田勉・宮城義弘 (1996) 「沖縄はなぜ基地を拒否するか」新日本出版社
- 池上彰 (2002) 「そうだったのか！日本現代史」集英社
- 森山康平・平塚柁緒 (1995) 「図説—太平洋戦争」太平洋研究会
- 大田昌秀 (2000) 「醜い日本人」岩波書店
- マイクモラスキー (2006) 「占領の記憶／記憶の占領—戦後沖縄・日本・アメリカ」青土社
- 野村浩也 (2005) 「無意識の植民地主義・日本人の米軍基地と沖縄人」御茶の水書房